

CarroMag.



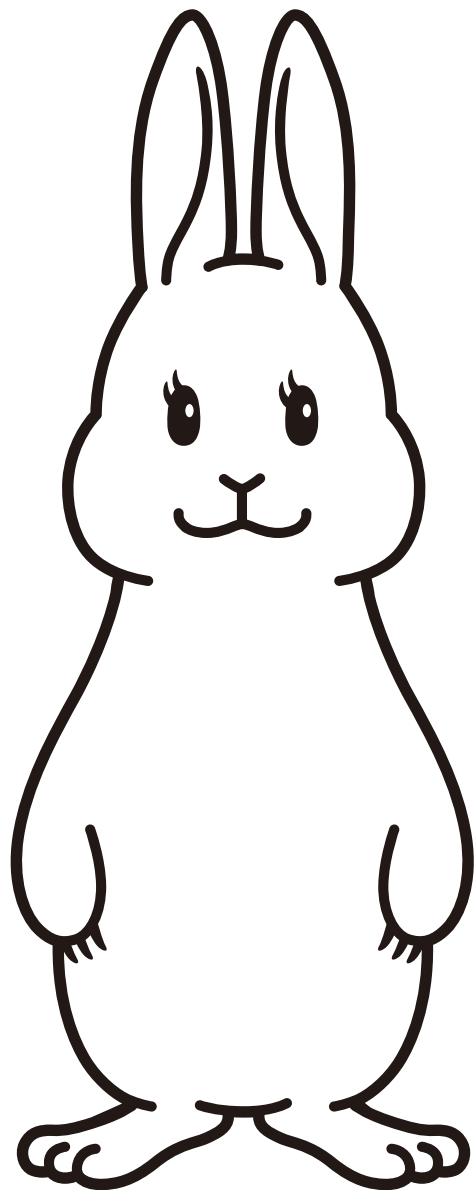
Let's
エンゲキ!

ワークシヨップ・レポート
高校生のための
演劇ワークシヨップ
'12

夏
「まちまち、まち」

冬
「Do you have
the time?」

『キャロマグ』ってなに？



三軒茶屋のキャロットタワーにある世田谷パブリックシアターには、ちょっとややこしいのですが、組織名と同じ「世田谷パブリックシアター」(600席)と「シアターラム」(200席)という2つの劇場があり、年間を通じていろいろな演劇やダンスの作品を上演しています。

ですが、世田谷パブリックシアターの活動はこうした劇場での上演活動に留まりません！3つある稽古場や、セミナールーム、世田谷区内の小中学校や児童館、高齢者施設などで、小学生からお年寄りの方まで、ありとあらゆる方たちが参加できるレクチャーや演劇ワークショップを行っています。

キャロマグは、そんな世田谷パブリックシアターの、通常目に留まることの少ないこうした活動を不定期で紹介する冊子です。オレンジ色のキャロットタワーにある劇場の冊子だから、キャロットマガジン。それを短くしてキャロマグ(CarroMag)。ご案内をつとめるのは、うさぎのキャロちゃんです。

一気にいろいろご紹介はできませんけれど、これをお読みのみなさんに、少しずつ世田谷パブリックシアターの活動を知って頂きたいと思っています。もし、ちょっとでもご興味をもって頂けるような内容がありましたら、今度はぜひ参加しにいらしてくださいね。

CarroMag.

Vol.2 | Apr.2013

CONTENTS

ワークショップ・レポート

高校生のための 演劇ワークショップ'12

はじめに 世田谷パブリックシアターの「子どもワークショップ」 2

2012年度実施の「子どもワークショップ」 3

夏のワークショップ

「まちまち、まち」 4

冬のワークショップ

「Do you have the time?」 8

高校生座談会

「時間泥棒は群青色のまちの夢を見るか？」 12

CarroMag. Information

近日開催予定の主なイベント・ワークショップ
学芸スタッフから
おまけマンガ『たまにはこんな役 #2』
編集後記

16

はじめに

世田谷パブリックシアターの 「子どもワークショップ」

世田谷パブリックシアターでは、学校の長期休みや連休に合わせて、小学生、中学生、高校生までを対象に「子どもワークショップ」を実施しています。「子どもワークショップ」は、普段は別々の環境で暮らしている子どもたちが、家とも学校とも塾や習い事とも違う、生活から離れた場所である劇場の稽古場に集まり、新しい仲間と出会うことから始まる演劇ワークショップです。

劇場に集まってきた子どもたちは、進行役とともに演劇づくりに取り組みます。毎回、テーマや内容は異なるものの、演劇をするための特別な訓練をするわけではありません。ワークショップのなかで遊び、楽しみながら活動することが、そのまま演劇になっていく点は、どの企画でも共通しています。

学校や塾での仲間同士の常識に緊張し、大人たちの常識にも束縛されるイマドキの子どもたちには、常識にがんじがらめになるのではない自由な遊び場が必要なかもしれません。しかし、自由に遊べと言われても意外に難しいものです。進行役は、自由な遊び場を創出するために、遊びのルールを提案し、子どもたちが楽しみながら演劇づくりに取り組めるよう働きかけ

ていきます。ルールの中で遊ぶからこそ、楽しみは増していくのです。

無理に演劇をしようと考えなくとも、遊びに没頭していれば、自然と演劇が生まれている。ふと気がつく、実は自分たちがやってきたことが、演劇創作につながっていた。そう感じられれば、“演劇”が、堅苦しい、小難しいものではなく、もっと身近なものと思えるのではないのでしょうか。

劇場で新しい仲間と出会い、演劇を身近なものとして体験した子どもたちは、たった数日間のワークショップが終わると、またすぐにそれぞれの生活に戻っていきます。演劇ワークショップという場を通して今まで知らなかった人と出会うことや、普段は気にも留めなかった物事を意識する経験など、全ての新鮮な体験は、参加している子どもたちの将来の可能性を、ほんの少し、ひろげると信じています。ひとりでも大丈夫。気軽に参加してください。

今号では、2012年の夏(8月23日～26日)と冬(12月26日～28日)に行われた高校生向けのワークショップの様子をご紹介します。進行役はとみやまあゆみさん(ニックネーム：プリンちゃん)です。

文：田幡裕亮

2012年度実施の「子どもワークショップ」

こんなに
たくさん
あるんだね!



『中高生のための 演劇ワークショップ』 ～ ONE DAY CHALLENGE ～

進行役：富永圭一
2012年7月21日[土]
初めての人でも大丈夫！ シアターゲーム
を中心に、遊びながら、演劇を体験！

『中学生のための 演劇ワークショップ』 ～どっぷり演劇6日間～

進行役：富永圭一
2012年7月30日[月]～8月1日[水]・
3日[金]～5日[日]
自分たちでテーマ「ゲームの中」を決め、3
グループにわかれて演劇をつくりました。

『高校生のための 演劇ワークショップ』 ～ Do you have the time? ～

進行役：とみやまあゆみ
2012年12月26日～28日[金]
時間について色々な角度から考え、演劇を
つくって発表しました。

『小学生のための ダンスワークショップ』 ～だれかのための ダンスを踊ろう～

進行役：白神ももこ
(モモンガ・コンプレックス)
2012年7月25日[水]・26日[木]
気になる「だれか」の動きをまねして、ダン
スをつくって踊りました。

『小学生のための 遊ぶ演劇ワークショップ』 「こっそりエンゲキ大冒険」

進行役：すずきこーた
2012年8月19日(日)
低学年コースの抽選にもれてしまったみんな
だけを対象に、ひみつのワークショップ！

『小学生のための 演劇+?ワークショップ お正月スペシャル!』

進行役：すずきこーた、
久保山ルイス、岩崎メルセデス
2013年1月5日[土]・6日[日]
お正月のごちそうにも飽きた頃、ペルーの
料理やダンスからの演劇づくりに挑戦！

『小学生のための 遊ぶ演劇ワークショップ』 「ありやま! エンゲキ大冒険」

(1) 低学年7月コース ～しんぶんし と あそぼう!～

進行役：大久保慎太郎、
上ノ空はなび・野崎夏世(to R mansion)
2012年7月27日[金]～29日[日]
新聞紙で遊んだり紙粘土をつくったり。最
後は新聞紙が粘土に変わる様子を身体で表
現！

(2) 低学年8月コース ～ひみつきち は どこだ!?～

進行役：大西由紀子
2012年8月20日[月]～22日[水]
稽古場いっぱいにつくった4つの秘密基地。
お互いの秘密基地を訪問&探検！

(3) 高学年コース ～みんなの未来 どうする?～

進行役：すずきこーた
協力：きらきら星ネット
2012年8月7日[火]～9日[木]・
11日[土]・12日[日]
福島から避難されている方のお話を聞き、
考えたことを演劇にして、お話しくれた方
や保護者の方々に伝えました。

『高校生のための 演劇ワークショップ』 ～まちまち、まち～

進行役：とみやまあゆみ、
藤原ちから(編集者・演劇ライター)
2012年8月23日[木]～26日[日]
まちで窓の写真を撮ったり、声やエピソード
を拾って、架空のまちをつくりました。

『小学生のための 遊ぶ演劇ワークショップ』 「せたがやジュモン研究所」

進行役：柏木陽
2012年10月7日[日]
自分たちで考えたジュモンの効き目を演劇
で紹介！

『小学生のための 遊ぶ演劇ワークショップ』 高学年コース』

進行役：大西由紀子
2012年12月22日～24日[日]
稽古場に巨大スゴロクをつくって、自分た
ちがコマになって遊びました。

『中学生のための 演劇ワークショップ』

(1) 「音のこと」

進行役：大久保慎太郎、大西由紀子
2013年2月2日[土]
色々な音を聞いて、音から場面をつくっ
たり、場面に音をつけたりしました。

(2) 「物語のこと」

進行役：柏木陽
2013年2月10日[月]
様々な写真を無作為に並べて「物語」をつ
くりました。

(3) 「身体のこと」

進行役：富永圭一
2013年2月10日[日]
身体からも、たくさんの情報を伝えられる
ことを体験しました。

『中学生のための 演劇ワークショップ』 ～演劇を「構成」しよう!～

進行役：柏木陽、大西由紀子
2013年3月26日[火]～31日[日]
演劇の「構成」に注目。いろいろなテキスト
に触れながら作品づくりに取り組みます！
(予定)

「まちまち、まち」

2012年8月23日[木]～8月26日[日] 全4回

参加者数:18名

窓に至るまでと、それからのこと

ある夏の日、確かお昼前とか、それくらいの時間に、私は坂道を登っていました。汗をだらだら、かきながら。それから、坂の頂上あたりでふと振り返ると、そこからは、まちが見下ろせました。日差しに照らされた、たくさんの、屋根。壁とか、窓とか、カーテンとか、ベランダとか、洗濯物（私が着たことのない誰かの服や下着）とか、ドアとか、も、見えました。その屋根の下、や、窓やドアの中には、私とは違う人が、私とは違う仕事をし、違う生活習慣を持ち、違うことを考え、違う人と付き合い、違う人生を送っているのか、と、思って（その時、本当にふと、思って）、ちょっと、というかなんまり驚きました。私の知らない人生。が、存在しているということに、ぎょっとしたのです。誤解を恐れずに言ってしまうと、少し、グロテスクなようにも感じました。

それから。私の部屋は、南西の角にあります。南側の窓は大きく、ベランダに出ることができます。西側にも窓がありますが、こちらは小さく、私がベッドに横になると、ちょうど体が窓の枠と同じくらいの高さになります。目覚めて、体を起こしピンクのカーテンを開けると、その西側の窓からは、別の窓が見えます。ちょっと

ずれて、右斜め下。頑張れば、手が届くかもしれない距離。これはお隣さんの母屋とうちの間に建っている、お隣さんちの、とても小さな離れの二階の窓。ある時から急に人の気配がして、いつ見ても窓の明かりがついている。住人の顔は見たことがない。気になる。ある時ちらりと見えた、ロマンスグレーの髪をきれいに整え、黒の薄手のニットを来た、メガネの五十代前後の男性。……意外だ。それからまた、ふと。私がこんなに気になるように、向こうも私のことを気にしていたらどうしよう、というか、こちら側のこの窓の中に、こんな、私のような人間がいるということを知っているだろうか、というか、私、向こうから見えていたりするんだらうか……。とっても奇妙な話です。

でも、そんなものかもしれません。

まったく知らない人が、壁一枚隔てた向こうで異世界のように生活を営んでいる。知らない同士が、たまたま、ここに集まってきて、たまたま、生活の一端が重なっている。それが“まち”なのだとしたら、もう少し、このまちの、どこかの窓の中のことを想像してみるのも、いいかもしれないと、そう思ったのです。

文：進行役・とみやまあゆみ（プリンちゃん）



『高校生のための演劇ワークショップ ～まちまち、まち～』プログラム

1日目

8月23日[木] 13:00～16:30

まずは車座になって自己紹介。ニックネームをつけて、「ここに来るまでに最後に食べたもの」について話します。そしてアイスブレイクのゲーム。

「かばんの中身」。自分の鞆から3つのアイテムを選び、2人組になってそれぞれのアイテムについて相手の話を聴きます。聴いた人は、その中からエピソードをひとつ選んで全員に紹介！

ワークショップのテーマである「まち」について、進行役のプリンちゃん（とみやまあゆみ）が熱い想いを語ります。そして参加者それぞれの「家」について、話してみる。

今日のお願い！

気になる「窓」や「入口」の写真をケータイなどで撮ってくる！

2日目

8月24日[金] 10:30～16:30

稽古場の中心をキャロットタワーに見立てて、自分の家がある位置に立ってみます。そして自分が住む「まち」のエピソードを紹介。

アイスブレイクとして、ジャンケン王様ゲーム。大盛り上がり！

前日に撮影してきた写真を紹介。近いな、と感じるもの同士で集まってグループをつくり、グループ名を決めます。3つの「まち」が稽古場に出現！ビニールテープで「まち」の境界をつくっていきます。

今日のお願い！

帰り道で実際のまちの様子を観察してくる！

3日目

8月25日[土] 10:30～16:30

それぞれの「まち」に、道路や建物をつくっていきます。

観察してきた前日のエピソードを1人ずつ話す。聞いている人は、その発表で気になった言葉を付箋にメモ。さらには付箋を壁に貼って分類します。

窓の写真と関連付けられそうな内容の付箋を、壁から探して持ってきます。そして写真+付箋の情報をもとに、短いシーンをつくって発表。

4日目

8月26日[日] 10:30～16:30

昨日つくったシーンをさらに練り直していきます。留意点は、「1人だけである時間のシーンをつくる」「劇の中で、角度を変えてみる」の2つ。

進行役もやる気に！ 高校生たちと同じ条件でつくった演劇をやってみせます。

できたシーンを繋げて、それぞれ発表！最後にみんなで4日間をふりかえります。

「Do you have the time?」

2012年12月26日〔水〕～12月28日〔金〕全3回

参加者数：8名

わたし時間について、尋ねてみる

その時の私は、もう少しで25歳の誕生日を迎える、という頃でした。

25歳。にじゅうごさい。私の中では、私、というものを考えたり顧みたりするときには、イメージの中でよく高校の制服を着ていたりするから（それかどうかは思う）、ちょっとよく、その数字の意味が分かりませんでした。なんだか、変。私が25歳になるなんて。そのことに、気持ち悪さまで感じました。では、その気持ち悪さの正体とは、いったい何なのでしょう。おそらくそれは、私が認識している「この私」と、「世間の一般的な25歳」のイメージが、ズレていたのです。でも、ちょっと待って。「世間一般の25歳像」って、何？ そんなものが本当にあるの？ というか、仮にあったとして、私がそれと比べられる必要もないし、合わせる必要もないし、そもそも、なんで私はそのズレを感じて、なんだか気持ち悪くなったりしなきゃいけないわけ？ と、勝手に怒りすら感じてしまいました。

なぜ私の中に、「世間一般の25歳像」なんてものがあるのか。それでも、私は確かに、25年の歳月を生きてきて、それは、誰と比べるようなものでもないはずだ。

時間には少なくとも、2種類あります。時計の時間と、自分が感じている時間。

時計の時間の進む速さは、きっと時計のある場所では万国共通でしょう。でも時計の針なんかで区切られる前から私たちは生きていて、立っていて、喋っている。自分の中で感じている変化や、移ろっているということ、劣化していくものもあって、例えば、若葉を通過して私に届く太陽の光に感じるものとか、夜の匂いとか、潮風とか、髪の毛が伸びたねとか、息が白いよとか、あれこんなに好きだったっけとか、もう徹夜できないぜ、とか。だから結構、「わたし時間」、というものがある気がしています。それはたぶん、隣のその人や気になるあの子とは違うだろうし、でも意外と、地球の裏側に暮らすブラジル人のおばちゃんとは近かったりするのかもしれない。なんて。思ったり。だから、高校生くらいの年齢の人たちに、時間について、尋ねてみることにしました。

文：進行役・とみやまあゆみ（プリンちゃん）



『高校生のための演劇ワークショップ ～ Do you have the time? ～』プログラム

1日目

12月26日[水] 10:30～17:00

自己紹介。まずはニックネームを披露。
そして「10分間あったらやること」
を話して、向かい側の人が何か質問し
ます。

朝起きてから稽古場に着くまでの時間
／寝た時間／好きな時間帯などを、言
葉やジェスチャーもなしで顔つきだけ
をみて判断し、並び順を換える。その
あとお昼を食べて、それぞれの好きな
時間帯の理由を話します。

「気持の良いテンポ」が近い人同士
(2人組み)でフリートーク。逆に、遠
い人同士でもフリートーク。それをみ
んなに紹介します。

1分間シリーズ！(1分で手を挙げる／
トランプを並べなおす／一点をみつめる
／部屋の中に立つ／外に立つ／暗い中に
立つ／ジャンプする／マッサージしあう
／歩く／笑い続ける／怒り続ける／褒め
合う／相手の顔を描く／昔話を1分でやっ
てみる……etc.)

「昔話を1分でやってみる」を発表し
て(竹取物語、赤ずきんetc.)、さらにま
たつくりなおして発表します。

今朝起きてから今の瞬間までの流れを
線で描きます。

2日目

12月27日[木] 10:30～17:00

進行アシスタントのいっしー(大石将
弘)タイム！ 引いたトランプの数が
「趣味」や「会社でつくっているもの」
の規模のレベル。フリートークで数の
近い人を探します。

チームでテーマを決め、コマ送りで表
現(蝶の成長etc.)。

進行アシスタントのよっしー(池田仁
徳)タイム！ 手に乗せた紙を落とさ
ないように色々な動きをしてみます。
すると不思議、空気とダンスしてるよ
う。

1分間の心拍数をはかったり、時間の
ズレについてのエピソードを2人組み
で話し合ったり。その「ズレエピソード」
を全体で2グループに分かれて演
劇的なシーンにしてみます。

3日目

12月28日[金] 10:30～17:00

「私の思う時間の始まりから終わりま
で」をビニールテープでつくって、そ
の上を歩いてみます。

前日のズレエピソードの演劇化をひき
つづき。「一瞬の中でいろいろ思った
経験を、一瞬の演劇にする」がテーマ。

全員で1つのコマ送りに挑戦！ テー
マは「蝶の孵化～成虫」最後は全員で
一羽の蝶に。

全体で40分ほどの作品に繋げて、発
表。ふりかえります。

高校生座談会

時間泥棒は群青色のまちの夢を見るか？

ワークショップに参加した高校生たちで集まり、同窓会的にあれこれと振り返りました。

座談会に
参加してくれた
メンバー



とみやまあゆみ
[プリン：夏・冬の進行役]



千葉ゆり
[ゆり：夏・冬参加]



坂上沙織
[さおりん：夏参加]



斎藤太郎
[たろう：夏参加]



水野菜々
[なな：夏参加]



宮坂美穂
[みほ：夏参加]

+

藤原ちから [ちから：夏の進行役]、荻澤大地 [にらだい：スタッフ]、福西千砂都 [ふくちゃん：スタッフ]

ふだんと違う関係性に 飛び込む

プリン 参加してみてどうだった？
遠い記憶すぎて、だいぶ昔のことの
ようにも感じるけど。

ゆり 夏のワークショップ(以下WS)
はもう、面白すぎてね。あれから
「まちってなんだろう？」と考える
ようになって。地元も、通学路も、
どこも「まち」だって気づいてから、

日々を過ごす中での楽しいポイント
が増えました。そうそう、夏の時に
写真撮った建設中のビルが、こない
だ完成したんですよ。なんか嬉しく
て。でも完成前も知ってるぞ、と
(笑)。

みほ 私も、生活がうかがえるもの
だったり、知らない世界だったりへ
の興味を、(WSを通じて)言葉にす
るようになったことで、自分が一歩
進んだなと感じました。あと(いつ

もの)周りの人とは違う同世代と話
ができたのも面白かった。なんでも
言える環境だった。
なな うんうん。
プリン なな、めっちゃ頷いてるね。
なな ほんとにはもっと頷きたいく
らい！首の可動域が足りない(笑)。
同じ空気の人があります、自分と。学
校だとたまに自分が変なのかなって
思うんですけど、WSだとそうは思
わない。テンションの違いはあるけ

私が夏の高校生ワークショップ(以下WS)を通じて印象に残ったことは、WSに参加しているみんながとても積極的に生き生きしていたということです。普通の生活をしているだけでは絶対に会うことがなかったような人達のお話を聞いたり、ゲームをしたりしたことはとても刺激的で楽しかったです。私は少し人見知りなので、見ず知らずの人達がたくさんいる場所で、自己紹介をしたり自分の町を紹介したりするのは、緊張するだろうなと思っていましたが、WSに参加しているみんながとてもフレンドリーに接してくれたので、あまり緊張もせず、いつもの自然な自分で楽しむことができました。WSに参加する前、私は自分のことを消極的で、人前で話すことは苦手な人間だと決め付けていましたが、WSの体験を通じて、人前で話すことは楽しいことだということが分かり、意外と話すことは得意かもしれないと思い、自信ができました。またこのようなWSがあればぜひ参加したいと思います。参加させていただきありがとうございました。[石崎美雨(みう)夏参加]

ど、ものの考え方は同じというか。
さおりん 似てるというか？
みほ それぞれ違うものをめっちゃ
追ってるんだけど、その追い方が似
てる感じ？

たろう たぶん同じこと考えてる人
は学校にもいるんですよ。接点がない
だけで。WSだと出会える。

みほ 何かしら、大きな出会いがあ
った気がしたね。

さおりん 友達誘うかどうか迷って、
結局ひとりで来たけど、ふだんの自
分を知らない人と出会うのが楽しく
てワクワクしました。

ゆり ふだんとは違う自分になれる
よね。学校の友達がいたら絶対でき
ないし。

さおりん それ、わかる。

たろう 僕は最初、人間関係をいつ
もと変えていこうと思ったんだけど、
行き着く先はいつもと同じ自分の在
り方だったな。そういう意味で自分
を見つめ直しました。

みほ 私はWS初めてだったし、別
の用事でちょっと出遅れちゃったら
もうみんな打ち解けてるし。でも最
初さおりんが話しかけてくれたんだ
けど、こんな可愛いふわふわした子
が話してくれたのが嬉しかったし、
ただバツと過ぎ去るんじゃなくてち
ゃんと内面も見ようとしてくれてる
のかなあーと思った。面白いと思え
たふわふわ系女子は初めて。

ゆり 最初は劇場っておめかしして
来るもんだと思ってたけど、それが
今では「やっほー！」みたいになっ
た。劇場ってそういう場所なんだな
ってわかったら楽しいし。ましてや
こんなに友達増えるとは。私大体、
友達関係薄っぺらいから。

なな 八方美人でしょ？私も八方
美人だからそうかなと思って。

ゆり WSだと心からビックリする
ことがあるんですよ。それですご
く、虜になります。

時間泥棒？

たろう 夏のWSで、大人チームの
3人がひとりずつパフォーマンスし
たのがめっちゃめっちゃ良かった。プ
リンちゃんの、いまだに思い出すし。

ゆり 部屋の温度が下がったよね。

みほ 霧が出た！

プリン ふふ、女優だからさ(笑)。

みほ WSの日程が長かったら、私
たちももっとガチでいけたかも。

なな うん、もうちょっと時間ほしい。
みほ 最初のアイスブレイクの時間
がなかったらこんなに仲良くなって
ないと思うから、それは減らさずに、
劇をつくる時間が増えたら。

さおりん WSで打ち解けたメンバ
ーで今もう一回集まったら、また違
うものができるかなって思います。

プリン 夏も冬もWSやってるから、

みんな来たらいいよ(笑)。あ、冬
のほうはどうだった？

ゆり 冬も凄く面白かったですよ。
ふだん過ごしてる時間やテンポと違
う感覚になるのはどういう時かなっ
て、よしこう(参加者)と話したん
です。テスト終わって見直してる時
間と、1間に悩んでる時間は違うと
か。転んで怪我する瞬間は遅いよね、
とか。顔見知りを見つけてお互い
「アッ」てなる瞬間とか。

プリン 冬は3日間、時間について
考えたんだよね。最後は全員で40
分くらいの発表をしたね。

ゆり 発表会が終わった後で、「自
分たちの発表に名前を付けるとした
らなんだろう？」って話になった
時に、アリサ(参加者)が『『灰色の
私たち』かな』って言ったのが印象
に残ってて。それはミハエル・エ
ンデの『モモ』の、灰色の時間泥棒
が元になってるんだけど、観てるみ
んなの時間を奪っちゃったぜ、みた
いな(笑)。確かに観てる人の時間を
奪うのが演劇だと思うし、私たち時
間泥棒しちゃった、っていう感覚が
楽しかった。ただ、やってることに
不満を感じる時もあったし、自分
に嘘がつけなくなってきてて……。

プリン いいよいいよ。「ゆり、ど
ーした？」って訊いたら、「なんか
わたしはあー！」って不満言ってた
もんね。

ワークショップ（以下WS）で得たものは、演劇の捉え方です。例えば、夏のWSでやった「付箋に書かれた言葉で作る演劇」、それぞれが街で拾ってきた短いストーリーを言葉に直して、その切れ端をかき集めて、演劇を作っていく。その中で、「演劇」は無理に作ろうとしなくても、常日頃からそこにあるものだ。と強く感じました。いつもそこら中に転がっている、その「演劇」に、メッセージを詰めて組み上げたのが、多くの人が知る、劇場やホールでやっている演劇であって、たとえメッセージなんてなくても、それでもそれは立派な演劇なんだと、そんなんが日常には溢れてるんだと、そう思って、演劇との距離が縮まったように、演劇の捉え方が変わったように思います。WSで印象に残ったのは冬にやった「紙ダンス」です。紙をもって踊る。やってる事は単純なのに、それを大勢が同じ空間で同時に始めたとなん、物語が生まれるから不思議です。紙を持ったり捨てたり落としたり、個人の単純な動きが、お互いに主張を持って、向かい合ってみたり、儀式めいた事が始まったりと、自然と幾つかにまとまり合っていくのが、やっていて、とても面白かったです。WS、またあの人たちとやりたいです。…できるかな？次のWSが待ち遠しい… [吉田広大（よしこう）夏参加]



みんな
とっても
楽しそう！

ゆり え、言っていない！（笑）
プリン 言った言った（笑）。いやそういうこと言える瞬間があるほうがいいよ。

ゆり 冬は参加人数が夏より少なかった分、ある方向に傾いていっちゃうという感じもあって。

プリン 夏のWSでは、みんなにひとつひとつ「どうだった？」って訊きながら進めたんだけど、冬のWSはそうしなかったの。意見は言いたい時に言っていってという形で。

ちから それはわざと？

プリン うん。そしたらやっぱり喋らない。訊けばぼろぼろって喋ってくれたりするんだらうけど、でもいつでも誰かが促してくれるわけじゃないじゃない？ 言わないなら言わないでいいけど、言ったらラクだと思うけどなあ、とは思いながらやってた。

ゆり 冬のWSは、ゆで卵の殻を剥くみたいに、ちょっとずつぼろぼろ剥がれていく感じで、早く全貌が見たいのに見えない〜、みたいなもどかしさもありましたね。でも3日目になって、みんな実はこんなに考えてるんだ一、とやっとわかったところがある。

みほ 夏のWSは、遠慮せずにできるように進行役の人が考えてくれてるなあと思いました。

ちから 大人チームでミーティングしまくって準備してた（笑）。ただ僕個人としては、もちろんみんなに楽しんでほしいとは思うけど、お客様としてもてなすというより、むしろ異物を突きつけてやろう、みたいなことは思ってたんだよね。ふだん出会わないものに会ってほしかったから。

ふくちゃん ミーティングしまくって準備してたけど、実際にどんなWSになるかは、その場にいるみんな次第というところもありましたね。
ちから 予想以上にみんなが言葉を持ってることが1日目にわかったから、じゃあもっとぶつけてみよう、って感じて。

プリン 正直、参加してるみんながお互いに仲良くなるかどうかより、WSが何かの「きっかけ」になればいいなと思ってて。そのためには発見だったり気づきだったり、今その時はわからなくても、何か芽生えればいいなと思った。それが波紋のようにひろがっていったら最高じゃない？ そのためにたぶん緊張しないほうがいいよねとかはあるけど、別に喧嘩別れしたっていいと思ってるし。それも自分の持ってるものをぶつけあって相容れなかった結果でしょ。でも結果的に仲良くなれたのは君たち自身の力だからね。

色に喩える？

にらだい 冬のWSは、思ってることを言えないフラストレーションの高まりがそれぞれ少なからずあったように思ってた、でもそれが最終的に発表会の強度に繋がったような気がするのね。空中分解するんじゃない、それぞれに違うからこそ、分厚いものになったというか。

ゆり 夏のWSを色で喩えるとポップな感じだったけど、冬はもっと混ざってて、パッと見はキレイじゃないけど、味があるなあ。

プリン 私はね、群青色だと思った。
みほ そもそもこういう話ができるのいいなあ。色で喩えるとか。

ゆり 私、初めて大人にきちんと叱られたのが演劇WSなんです。それまで大人に怒られたことがなくて、優等生として特別扱いしてくれるというか。でもWS行ったら、ちゃんと至極当たり前に叱ってくれる大人がいて。その人には「疲れることを嫌がってちゃダメだよ。疲れる時は楽しいんだよ」とも言われて、目から鱗でした。それって全然演劇の技術とは関係ないかもしれないけど、私という人格がWSによって変わってるんだなと思って、嬉しかったです。

プリン そうね。それに、別に変化

しない人がいてもいいし。

ふくちゃん WSで変わった部分もあると思うけど、選び取るのは自分でしかないから、やっぱり自分で変わったんだよ。

ゆり やっぱりWSでも、なんでこいつと同じグループでやらなきゃいけないの、って時もありますよ（笑）。

なな わかる一。おんなじグループになっちゃった時の気持ち！

ゆり だからけっこう黒いことも考えてます。でも逆に最終日にその人がなんか変わってると嬉しくなったりする（笑）。

「演劇」がひろがる

にらだい 「演劇」と「演劇WS」についてはどう思う？

みほ 最初、脚本を読むことだけが演劇だと思ってWSに来た人は、その定義が壊されるわけですよ。そこからじゃあ、演劇的なものをツールとして見てみませんか、というのが演劇WSなのかな。演劇は日常にもあるし、それを使って何かをやるとい。

たろう 演劇って呼ばれてるもののもっといろんな意味を持ってるな、ってことをWSは見せてくれた気がする。

さおりん WSだと深いところまで

自分を知ることができるというか。アイスブレイクの時間とかも、最終日になって大事だったんだなあって思いました。

なな WSに来るたびに、私が思う演劇の幅がひろがってるんですよ。これも演劇なんだ、とか思って。世界をひろげてくれる。自分では考えてないことが外から入ってくるのが面白い。

ゆり 演劇WSって非日常だと思うんですよ。ふつう、本名知らない人とご飯食べたりしないし。日常の安定した楽しさと違って、スリルがあって。年齢も分からないし。

たろう 最初、ゆりさんはスタッフだと思ってたもん（笑）。

みほ WS終わって、他の人の年齢がわかった途端に敬語になっちゃう人とかもいるよね（笑）。あえて年齢とか知らないほうがいいのかも。

ちから 確かにWSって、非日常的な時間に没頭するところがあると思う。ここでつかんだものを、逆に今度は日常の中にも投げ込んでいけるってのもあるよね。それも演劇の力だと思うし、いろいろ試してみてもいいな。

みほ またやりたい。

さおりん またやりたいです。このメンバーだったらもうアイスブレイクしなくていいかも。

なな 1回来た人限定？

さおりん でも、未経験者がいないのも寂しいよね。

ちから バンド組むみたいに、気軽に、自分たちで演劇やってみる手もあるかも？

にらだい 高校生同士が呼びかけて演劇やってる例もあるよ。

ゆり こうじゃなきゃいけない、って縛りはないですよな！

プリン 集まってこういう話をするだけでもいいし、演劇っていう形にしたいなと思ったら、したらいいし。必要なら使えばいいんだよ、私たちを。

なな 頼もしい。

みほ ほんとに今自分は、WS後にできた世界に生きてますね。

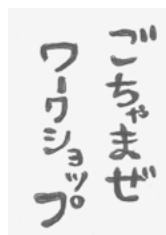
なな 私は4月から大学に演劇を研究しにいくんですけど、演劇WSに参加しなかったらその選択はなかったと思う。もうすぐ大学行って芸術研究できると思うと超楽しみ！ 顔熱い！

ゆり 会おうってほんとに運命的なものだと思うし、生かすも殺すも自分次第だと思ってるから、そういうきっかけをつかんだかなって思います。WSに行くことを選んだ自分を褒めてあげたい（笑）。

プリン 劇場ではいつも何かやってるから、また来てね。

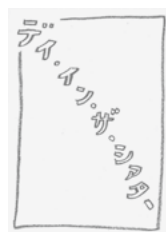


近日開催予定の主なイベント・ワークショップ



『ごちゃまぜワークショップ』～子どもだヨ！全員集合～

日程 2013年4月5日(金) 13時～16時 対象 小学生～20歳程度まで
参加費 500円 会場 世田谷文化生活情報センター ワークショップルームA
進級や入学を目前にひかえた春休み。学校も、学年もごちゃまぜにして、みんな
で演劇しませんか？



『デイ・イン・ザ・シアター』～開館16周年記念プログラム～

日程 2013年4月5日(金) 19時～21時30分(小パーティー付き)
対象 どなたでも 参加費 500円 会場 世田谷パブリックシアター稽古場
1997年の開館以来、不定期ながら継続して実施している、どなたでも大歓迎の
「劇場を楽しむ」演劇ワークショップです。



『世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部』

日程 2013年5月11日(土)、12日(日) 対象 中学生
参加費 1000円(全2回) 会場 世田谷パブリックシアター稽古場
中学生が年間を通して参加できるプログラム「世田谷パブリックシアター演劇部
中学生の部」がいよいよ始動！ 第1回目のテーマは「身体」です！(予定)

学芸スタッフから

★私の故郷では、桜は5月に咲くものでした。
なので、どうして「桜咲いたら1年生」なのか、
理解できなかった。しかし本州で暮らし始めて、
その美しさや歌の意味がわかりました。私もよ
うやく、桜の季節に1年生になれそうです。花
粉症のね。[にら]

★最近、「ぼくのだす道具は一回限りの使い捨てが多いんだ。安いからね」というドラえもん
の台詞に衝撃を受けました。彼は、悪びれもせず、
笑顔でした。1996年発売の『ドラえもん』
第45巻に載っています。ちょうど今の高校生
が生まれたくらいの年ですね。[ふく]

たまにはこんな役 #2



編集後記

春めいてきました。この冬の標準装備であった
ヒートテック2枚重ねをいったいどのタイミングで
手放していいものか考え中です。きっとこの号が出
る頃には、桜も満開どころかすでに散り始めている
んでしょうけど。諸行無常ですね。

さて今号で取り上げた高校生WS(夏)には、補
佐役として、特に2つのコンセプトを意識して現場
に臨みました。①「異物」に触れること。学校の同
世代とのコミュニケーションには無いタイプの言葉
や知識を投げかけることで、いつもとは違う身体
の在り方を感覚的につかんでほしかった。②安易に
想像力だけに頼らないこと。できるだけ丁寧に、具
体的に、まちを歩いて素材を収集していけば、自分
の想像の範囲を超えた存在として「他者」が見えて
くるはず。要するに、身体や言葉にはもっといろん
な可能性があるし、自分と他人が「違う」ことを怖
れなくてもいいよ、と伝えたかったのです。

それにしても、参加してくれた高校生たちの感受
性と吸収力には本当に驚きです。未来があるなあ。
そしてどんな子にも、その子なりの輝きが必ずある
のだなと実感しました。のびのびと生きてほしいと
願っております。[ちから]

[キャロマガ]
Vol.2 / Apr.2013

発行日
2013年3月31日

発行
公益財団法人せたがや文化財団
世田谷パブリックシアター
〒154-0004
東京都世田谷区太子堂4-1-1
Tel. 03-5432-1526
http://setagaya-pt.jp

編集
藤原ちから

企画
恵志美奈子、九谷倫恵子、
田幡裕亮、福西千砂都、韭澤大地
(以上世田谷パブリックシアター学芸)

デザイン
ウチカワデザイン

写真
鈴木真貴(冬のWS、座談会)

印刷・製本
株式会社リヒトブランニング

協賛
Asahi アサヒビール株式会社
TORAY 東レ株式会社

後援
世田谷区

世田谷パブリックシアターとは

世田谷区がつくり、(公財)せたがや文化財団が運営している、演劇やダンスのための専門劇場です。三軒茶屋のキャロットタワーの中に、世田谷パブリックシアター(約600席)、シアタートラム(約200席)の2つの劇場と稽古場、作業場などを擁し、ワークショップやレクチャーなどの参加体験型事業にも力を入れています。

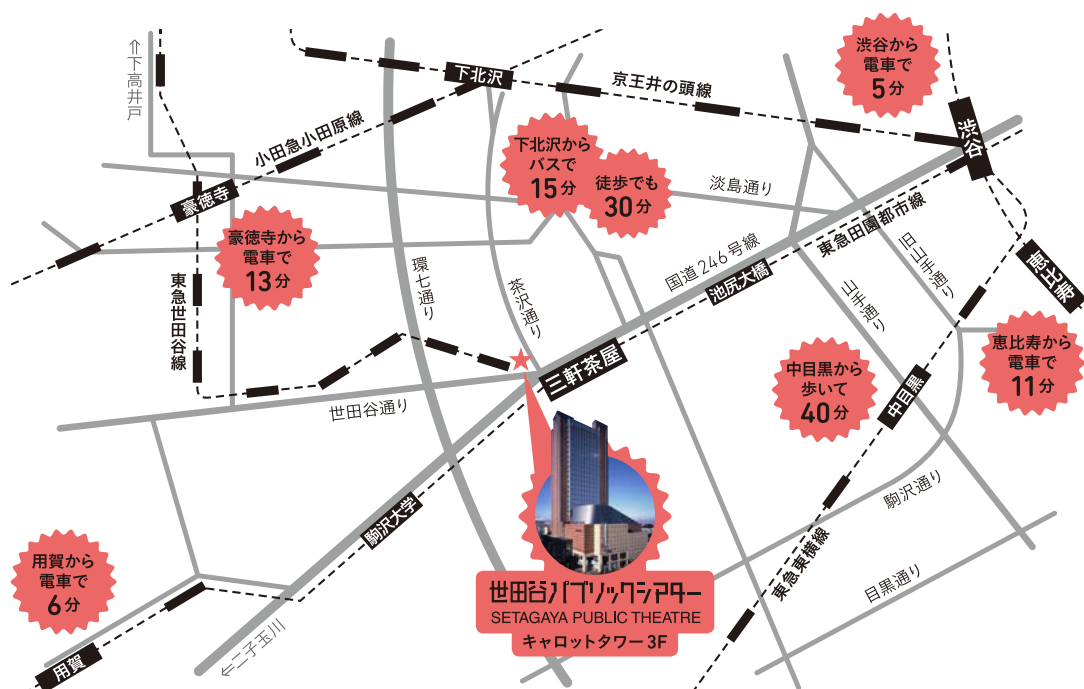


世田谷パブリックシアター(主劇場)



シアタートラム(小劇場)

世田谷パブリックシアターへのアクセス



お問い合わせ 世田谷パブリックシアター

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー 5階
Tel.03-5432-1526 (代表) Fax.03-5432-1559
<http://setagaya-pt.jp>

世田谷パブリックシアターは、東京都世田谷区太子堂の三軒茶屋駅にある26階建ての高層ビル、キャロットタワーのなかにあります。東急田園都市線、東急世田谷線三軒茶屋駅と直結しています。